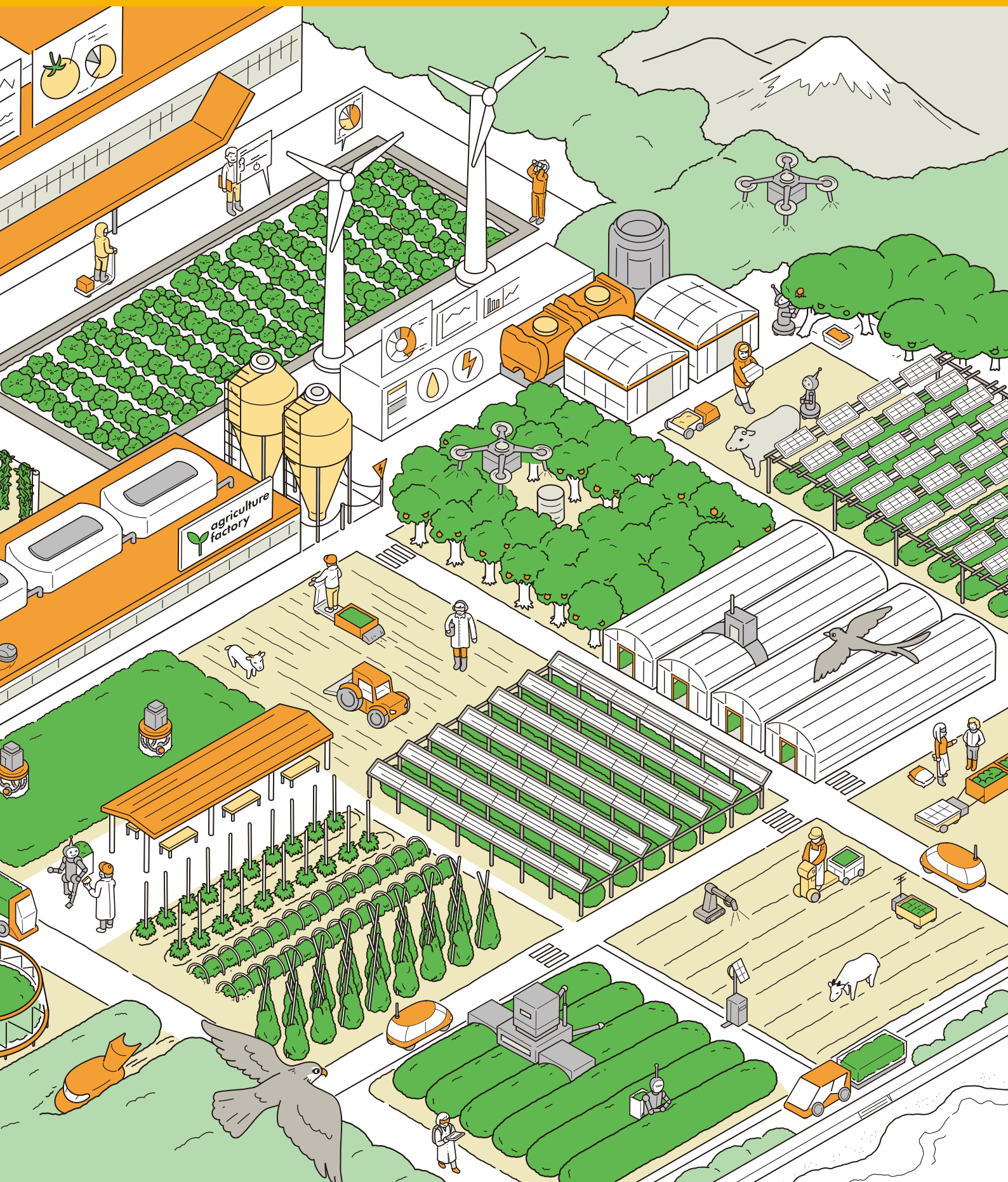


ディスクロージャー誌

静岡県信連の現況

# DISCLOSURE 2025

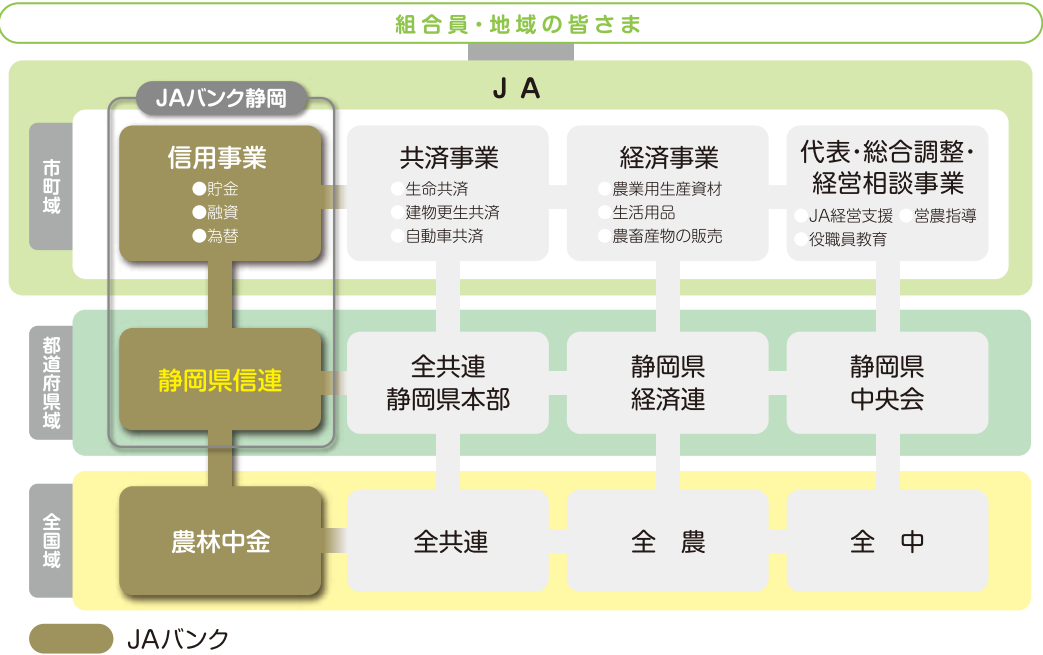


# 静岡県信連・JAバンク静岡とは

## JAグループの枠組み

「JA」は、信用事業、共済事業、経済事業、経営相談事業等の様々な事業を行っています。このうち、信用事業は総称して「JAバンク」と呼ばれており、各地域のJAと各都道府県域において信用事業の本部機能を担う信用農業協同組合連合会（信連）、全国域の本部機能を担う農林中金とで「JAバンク」グループを形成しています。また、静岡県のJA信用事業と当会を『JAバンク静岡』と総称しています。

JAグループ組織図



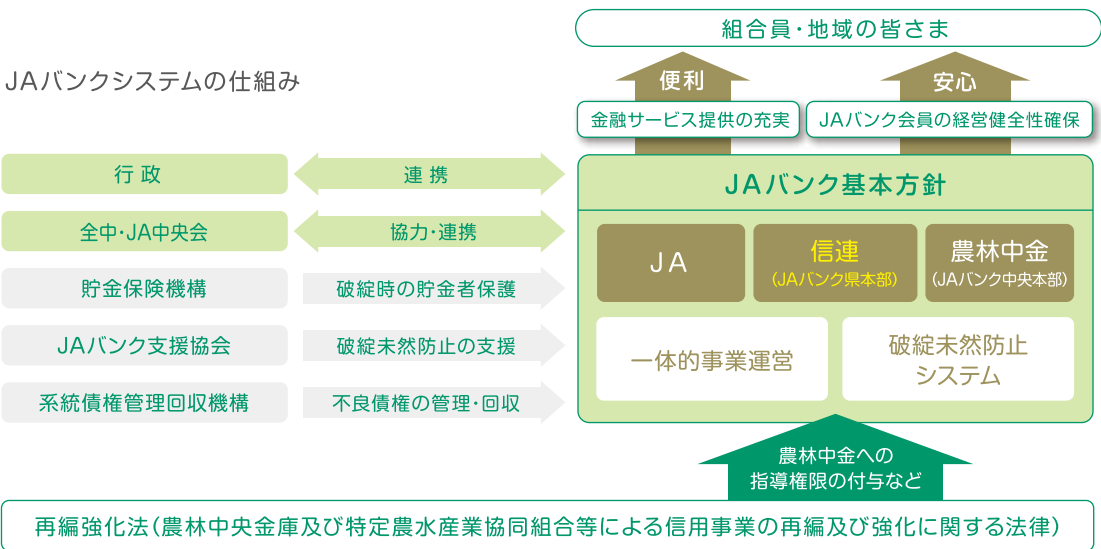
## JAバンクシステム

「JAバンクシステム」とは、再編強化法に則り、JAバンク会員総意のもと策定された「JAバンク基本方針」に基づき、JA・信連・農林中金が実質的に一つの金融機関（JAバンク）として機能し、一体的に事業運営に取り組むシステムです。

金融サービス提供の充実・強化を目指す「一体的事業運営」と、JAバンクの信頼性を確保する「破綻未然防止システム」の2つの柱で、組合員・地域の皆さまに、より一層の「便利」と「安心」をご提供します。

JAバンクは豊富な資金量とワイドなネットワークを活かして総合金融サービスを提供し、組合員・地域の皆さまに貢献しています。

JAバンクシステムの仕組み



## ■ 静岡県信連の概要

設 立：昭和23年8月

住 所：静岡市駿河区曲金三丁目8番1号

会員数：42会員(正会員22会員／准会員20会員)

<https://www.jabank-shizuoka.gr.jp/shinren/>

出資金：1,613億円

役員数：経営管理委員10名／理事5名／監事3名

職員数：273名(男性:168名 女性:105名)

(令和7年3月31日現在)

## ■ 業務のご案内

### 貯金等窓口業務

様々な貯金商品の取扱いや公金・公共料金等の収納業務、国債・投資信託の窓口販売及び信託代理店業務を行っています。



### 資金運用業務

農林中金及び銀行への預け金や有価証券・金銭債権等により、安全かつ効率的な運用を行っています。



### 相談・研修業務

JAの信用事業における事務処理や金融取引等で発生する法務・税務に関する相談に対応しています。そのほか、JA職員向け研修会等に取り組んでいます。



### 為替・決済業務

静岡県下JAの為替決済本部として、全国のJA並びに銀行・信用金庫等との為替取引をはじめ、口座振替等の各種決済業務を行っています。

### 融資業務

農業及び地域発展に寄与する一般企業・団体の設備資金や運転資金等の融資業務を行っています。



### 系統金融企画・推進業務

静岡県下JA全体の事業運営に係る企画、JAの金融事業活動に関する支援、JAの内部管理態勢の強化支援に取り組んでいます。



### 電算業務

JAの組合員・地域の皆さまに貯金・融資・為替・自動振替等のオンライン金融サービスを提供しています。



### 受託貸付業務

日本政策金融公庫の取扱店として、農業生産基盤の向上や新たに農業経営を開始するために必要な長期低利資金を取扱っています。

## ■ 静岡県信連店舗一覧

### 本店

- 静岡県農業会館 **ATM**  
〒422-8621 静岡市駿河区曲金三丁目8番1号  
1F 業務集中部  
資金運用部／総務部  
経営企画部／リスク統括部  
TEL.054-284-9652

- 静岡県農業会館第二ビル  
〒422-8621 静岡市駿河区曲金三丁目8番1号  
1F JA企画推進部 TEL.054-286-0099  
JA経営指導部 TEL.054-284-9527  
2F 食農営業部 TEL.054-284-9684  
業務集中部  
リスク統括部  
3F 農業支援部 TEL.054-284-9528  
5F 監事室／監査部

- 事務センター  
〒422-8691 静岡市駿河区豊田一丁目4番15号  
3F システム統括部  
JA事務管理部 TEL.054-284-9676

- グループ会社  
株式会社静岡県信連ビジネスサービス  
株式会社静岡ジェイエイサービス  
一般社団法人静岡県農協保証センター  
静岡県農業信用基金協会

### 営業部

- 富士営業部  
〒416-0907 富士市中島397番地の2  
TEL.0545-61-1550
- 浜松営業部(イーステージ浜松1F)  
〒430-0929 浜松市中央区中央一丁目2番1号  
TEL.053-453-0121



●静岡県農業会館



●静岡県農業会館第二ビル



●事務センター



●富士営業部



●浜松営業部

### 店舗外ATM設置場所

(令和7年7月1日現在)

- 静岡駅アスティ



©よりぞう

# 経営方針

## パーパスを起点としたサステナブル経営体系

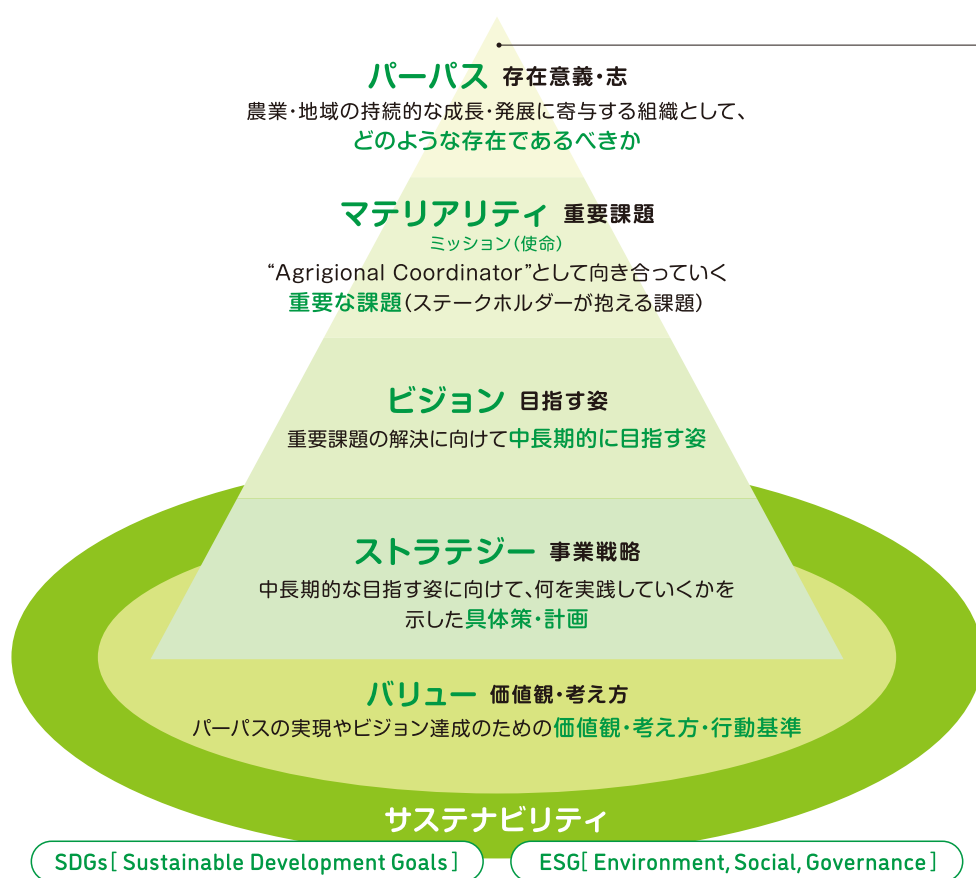
当会は、農業・地域の持続的な成長・発展に寄与する組織として、『Agrigional Coordinator(アグリジョナル・コーディネーター)～「つなぐ」力で農業・地域の輪を「ひろげる」～』というパーパス(存在意義)を掲げ、このパーパスを起点とした「サステナブル経営」を展開しています。

具体的には、当会のパーパスをステークホルダーの皆さまから信認いただくために、当会が向き合うべき重要課題(マテリアリティ)を定義しています。

そして、この重要課題を解決していく過程の中で、当会が中長

期的にどのような姿になっているべきか(ビジョン)を設定するとともに、ビジョン達成に向けた具体的な事業戦略(ストラテジー)を中期経営計画で明らかにし、様々な事業活動を通じて、経済的価値と社会・環境価値を創出しています。

当会は、すべてのステークホルダーの皆さまの発展に貢献していくこと、そして、当会自身も持続的に成長していくことができるよう、パーパスを起点とした「サステナブル経営」を着実に実践してまいります。



## 理念・行動規範・役職員の行動指針

### 理念

- 連合組織金融機関として調和を大切に効率的な組織機能を発揮します。
- 創造性ある金融サービスをとおして地域社会と夢のあるつながりを目指します。
- 社会的責任を自覚した健全経営を行います。

### 行動規範

#### 連合組織金融機関

系統金融機関として資金の運用と信用秩序の維持機能の役割を担い、自己責任に基づいた健全経営を確立し、会員への安定的利益還元と機能提供を図ります。

#### 地域金融機関

- (1) 金融サービス、情報の提供をとおしてお客様の豊かな暮らしに貢献します。
- (2) 地域のパートナーとして農業の発展と地域経済に貢献します。
- (3) 緑を大切に生活環境に根ざした文化活動に貢献します。

#### 組織・職場の活性

- (1) 職員の個性を大切にし金融のスペシャリストを目指し幅広い視野に立って能力の開発と人材の育成を実践します。
- (2) 系統金融組織と職場の合理性・効率性を常に追求し、自由闊達な職場風土を作ります。

### 役職員の行動指針

- 信頼に対し実意(誠意・熱意・好意)を持って行動します。
- 社会的公共性を踏まえその責務を果たします。
- 創造性と協調性を持って目標に向かい邁進します。
- 主体性ある行動により改革と飛躍を目指します。
- 豊かな人間性とやりがいを創出し幸福を追求します。

## 私たちのパーパス[存在意義・志]

不可逆的な変化の時代の中、私たち静岡県信連グループを取り巻く環境は、今後も複雑かつ加速度的に変化していくと想定されます。

このような状況の下、私たちが農業・地域の持続的な成長・発展に寄与する組織として、どのような存在であるべきか(存在意義・志=パーパス)を見つめ直し『Agrigional Coordinator (アグリージョナル・コーディネーター)~「つなぐ」力で農業・

地域の輪を「ひろげる」~』を最上位概念の「パーパス」と位置付けています。

私たちが実践するすべての業務がステークホルダーの皆さまへの価値提供や課題解決に資するものであることに誇りと自覚を持ち、持続可能な未来の実現に向け、皆さまの輪を「つなぎ」「ひろげる」ことに全力を尽くします。



## マテリアリティ[重要課題]の特定

「Agrigional Coordinator」として向き合っていく重要な課題として、私たちのステークホルダーを、ESGの観点にJAを加えた4つに大別し、これに合わせて4項目のマテリアリティを特定しました。

マテリアリティの特定に当たっては、外部・事業環境分析やSDGsを含めた外部要求事項等を統合し、妥当性を検証しています。

※環境(Environment)・社会(Social)・ガバナンス(Governance) + JA



## ビジョン[目指す姿]及びストラテジー[事業戦略]の位置づけ

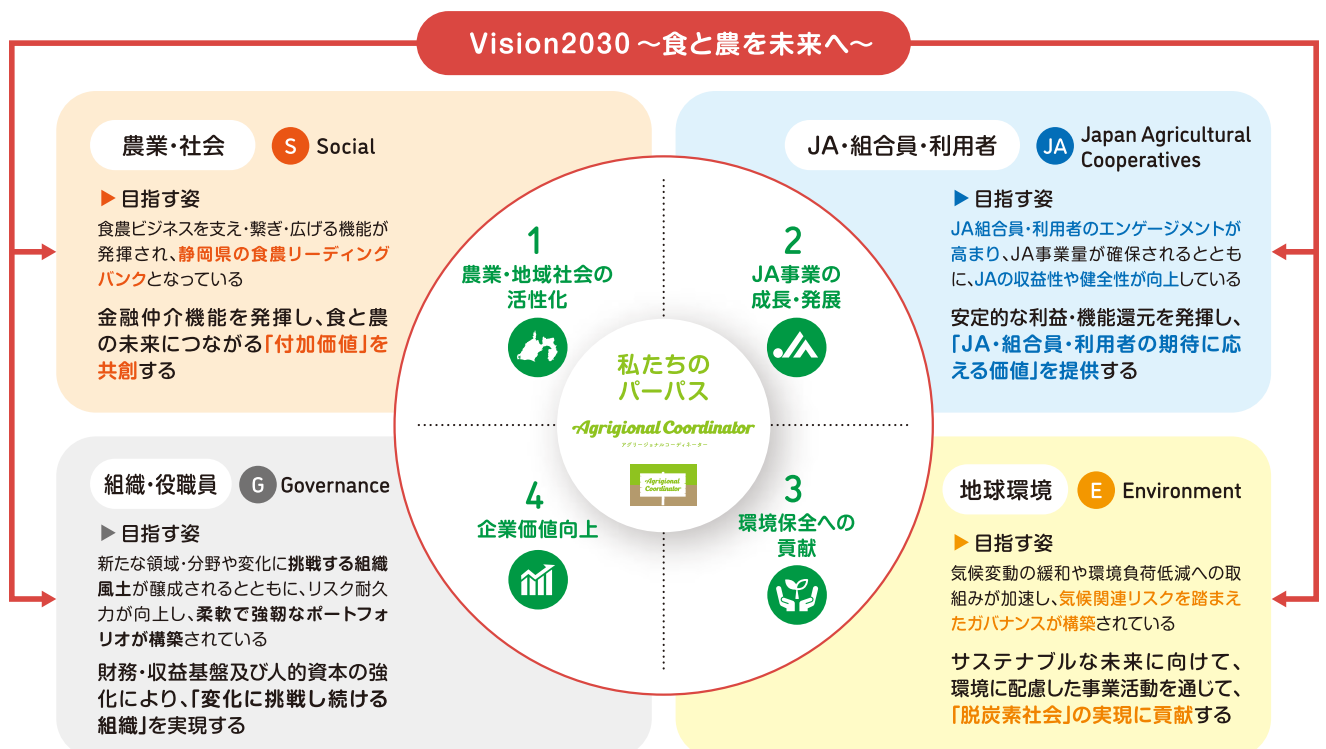
「マテリアリティ(重要課題)」を解決するために、私たちが中長期的にどのような姿になっているべきか(目指す姿=ビジョン)として“Vision 2030”を掲げ、向こう3年間(2025～2027年度)で何を実践していくのか(事業戦略=ストラテジー)を“中期経営計画”

計画”で明らかにし、具体的な事業活動を展開していきます。  
“中期経営計画”は、Agrigional Coordinatorを目指した取組みの「第3フェーズ」と位置付けて実践していきます。



### Vision2030 全体像

マテリアリティを解決するために、私たちが中長期的にどのような姿になっているべきか(目指す姿=ビジョン)を「Vision2030 ～食と農を未来へ～」として設定しています。



ストラテジー〔事業戦略〕＝「中期経営計画」の全体像

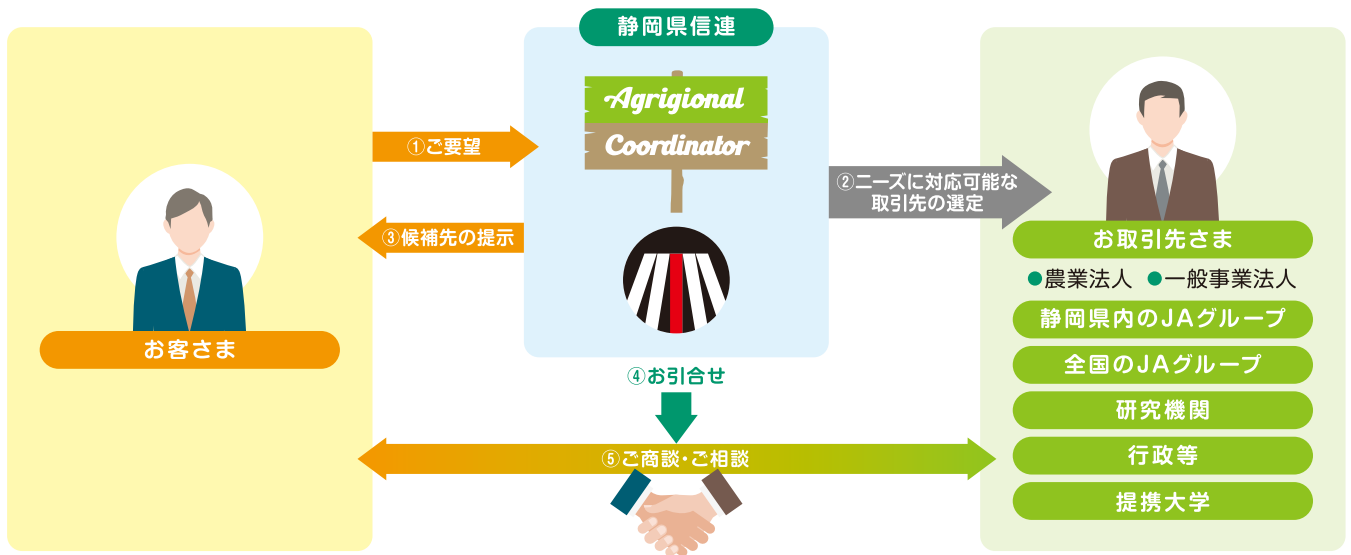
ストラテジー（事業戦略）として、2025年度からの3年間を  
 実践期間とする「中期経営計画」を策定し、策定に当たっては、  
 現状を前提に組み立てるフォアキャスト（現状から未来の順算）  
 に加え、私たちの目指す姿からバックキャスト（望ましい未来

からの逆算）する手法を併用しています。  
 また、事業活動を通じて達成すべきSDGs項目を基本目標  
 1～4として戦略ごと設定しています。



## 1 ビジネスマッチング

お客さまの経営課題解決のため、当会の情報ネットワーク活用や関係機関との連携により、新たな販売先や仕入先、専門家等、最適なビジネスパートナーをご紹介させていただき、お客さまのビジネスチャンスの創造と事業展開を応援いたします。



### 主なご提案メニュー

| 販売・供給拡大                                                                                                                                             | 農業参入                                                                                                                         | 経営最適化                                                                                                                                           | 研究                                                                                                                            | ファイナンス                                                                                                                     | SDGs                                                                                                                          |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 販路開拓の支援</li> <li>▶ 販売チャネルの多様化</li> <li>▶ 輸出・海外展開の支援</li> <li>▶ 農産物調達先の紹介</li> <li>▶ 仕入先・納入業者の紹介</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 農業参入手続き支援</li> <li>▶ 農地の紹介支援</li> <li>▶ 営農指導先の紹介</li> <li>▶ 補助金・助成金情報の提供</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 労働力確保に向けた支援</li> <li>▶ 事業承継の支援</li> <li>▶ M&amp;Aの支援</li> <li>▶ 福利厚生の充実</li> <li>▶ 不動産情報の提供</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 研究機関の紹介</li> <li>▶ 新技術の紹介</li> <li>▶ スタートアップ企業の事業化支援</li> <li>▶ 食品成分分析・鑑定</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 出資会社の紹介</li> <li>▶ リース会社の紹介</li> <li>▶ 補助金・助成金情報の提供</li> <li>▶ 制度資金の提案</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ CO2排出量計測</li> <li>▶ 自家消費型太陽光発電</li> <li>▶ ソーラーシェアリング</li> <li>▶ 省エネ・コスト削減</li> </ul> |

### 主な成約内容

| カテゴリー  | ニーズ先    | ニーズ概要                     | マッチング先        | 内容                       |
|--------|---------|---------------------------|---------------|--------------------------|
| 販路支援   | JAふじ伊豆  | 伊東市産ユレカレモンの販路紹介           | 結婚式場業         | 結婚式場用ジュースとして、2トンの販売が決定   |
|        | JA静岡経済連 | 揉一ひとエティーバッグの販路紹介          | 施設管理業         | 商業施設内お土産コーナーでの販売が決定      |
|        | 農業生産法人  | 小ネギの販路紹介                  | 農産物卸売業        | スーパー・量販店等への販売が決定         |
| 農業資材   | 農業生産法人  | 猛暑及び乾燥対策資材の紹介             | 農業資材製造業       | 植物活性剤の試験散布を実施            |
| 営農支援   | 農業生産法人  | 新規作物(ユウカリ)の生産に向けた営農指導依頼   | JA静岡市         | ユウカリ部会に加入し、営農指導をJAが対応    |
|        | 農業生産法人  | 新規栽培作物候補の紹介及び営農指導依頼       | JAふじ伊豆        | JAによる営農指導を受け、サツマイモの栽培を開始 |
|        | 不動産業    | ヘーゼルナッツの栽培に適した土壌改良委託先の紹介  | JA大井川         | JA経由で業者を紹介し、圃場の土壌改良を実施   |
| 脱炭素    | 廃棄物処理業  | 高機能バイオ炭の試験的な活用            | 有機質肥料製造業      | 苗床用高機能バイオ炭培土を提供          |
|        | 酒類製造業   | 酒米用水稻中干し延長取組み支援先の紹介       | 脱炭素支援業        | 農家向けに水稻中干し延長に関する説明会を実施   |
| スマート農業 | 農業生産法人  | ドローンによる農業散布委託先の紹介         | 農業資材卸売業       | ドローン取扱業者を紹介し、農業散布を実施     |
| 事業連携   | JAふじ伊豆  | ニューサマーオレンジ搾汁作業コストの削減      | 食品加工業         | 県内加工業者を紹介し、コスト削減を実現      |
| 調達支援   | 食料品製造業  | デザート・ジャム用いちご、ブルーベリー仕入先の紹介 | JAふじ伊豆卸売業(商社) | 加工用いちごの納入が決定             |

マッチング先 (株) フェイガー

連携先 (株) 溝口商店・鈴与(株)



## カーボנקレジットによる持続可能な農業の実現

静岡県信連は、JAグループの一員として地域や農業に欠かせない存在となるため、さまざまな取組みを進めています。このようななか、株式会社フェイガーが、J-クレジット制度において認定されている方法論「水稻栽培における中干し期間の延長」に基づき進めている取組みに着目しました。この方法は、農業者の脱炭素活動を支援し、その取組みをカーボנקレジットという形で収益化することを目的としています。当会はこの考えに共感し、2024年4月に株式会社フェイガーと連携協定を締結しました。

## 静岡初、水田から生み出す地産地消型J-クレジット

地域農業の持続可能性を高めるため、県下JA、静岡経済連と連携し「水稻栽培における中干し期間延長」に協力していただける生産者を募りました。その結果、株式会社溝口商店をはじめとする生産者にこの取組みへ賛同いただきました。

さらに、この取組みに共感する県内企業にも働きかけ、生成されたJ-クレジットの購入を促進した結果、2025年3月には県内の水田から353tのJ-クレジットが創出され、そのうち250tを鈴与株式会社に購入いただくことが決定しました。

これにより、地元で生み出されたカーボנקレジットを県内企業が活用する「地産地消型カーボנקレジットモデル」が、静岡県で初めて実現しました。

## 未来を創る地域連携モデル

県内でカーボנקレジットを創出し、地域内で活用することで持続可能な農業を実現しようというこの取組みが、生産者の意欲向上に貢献するのみならず、農業と地域経済を結ぶ新しいモデルとして定着し、さらに拡大していくことを期待して、今後も継続して取り組んでいきます。





### 土地の再利用と技術革新への挑戦

株式会社グリーンテック(以下:グリーンテック)は、かつて養鰻場だった土地の再利用方法として水耕栽培に着目し、昭和60年以降、小ねぎをはじめとする様々な野菜の水耕栽培に取り組み、試行錯誤しながら独自技術を蓄積してきました。現在では、水耕小ねぎの耕地面積、出荷量ともに全国トップクラスとなっています。しかし、グリーンテックの生産能力を上回る需要が継続しているため、生産規模拡大を目指し農地の確保が必要となっていました。

### 市場分析と生産規模の拡大への対応

グリーンテックに生産規模拡大の具体的な可能性を探りたいとの意向があったため、当会はJA系シンクタンク(農中総研)を紹介、小ねぎの市場規模とグリーンテックのシェアを詳細に分析することができました。

その後、当会が協力機関として参画している「静岡県農業法人誘致推進連絡会」において、藤枝市にて集約された農地情報を確認したため、グリーンテックに紹介し、成約に至りました。

### 新たな取引先との成約と相互の魅力

このような取組みを実施するなか、東京都内で主に非チェーン系の外食企業を顧客とする青果卸売業者(ベジクル株式会社)から、水耕小ねぎの紹介依頼が当会に寄せられました。そこでグリーンテックを紹介したところ、グリーンテックが自社でカット加工を行い、取引先のニーズに応じた納入が可能であることに魅力を感じていただきました。一方でグリーンテックも、ベジクル株式会社が幅広い販売先を保有していることに魅力を感じ、お互いのニーズが一致したことで成約に至りました。





### 熱海市は「国産レモン栽培発祥の地」

JAふじ伊豆管内の熱海市は、明治の初め、外国人観光客が訪れた際にレモンが伝わったといわれており、日本で最初にレモンが栽培された場所として知られています。

現在、日本国内で流通しているレモンの約9割が外国産で、国産レモンは1割にも満たない状況です。しかし、近年は「食の安全・安心」への関心が高まっており、国産レモンの需要は年々増加しています。

このような状況を踏まえて、JAふじ伊豆では、レモンの生産拡大と統一ブランド化を目指し、地域一体となって取組みを進めています。

### 価値を理解していただける販売先の探索

レモンの産地化に向けた取組みに伴い、生産量の増加が見込まれることから、販路拡大を目的として、JAふじ伊豆より当会に対し、価値を理解していただける販売先の紹介依頼がありました。

そこで、JAグループのネットワークを活用し、地域社会への貢献、生産者支援につながる希少性やストーリー性のある食材を求めている、農林中金取引先の株式会社テイクアンドギヴ・ニーズ(本社:東京都品川区、直営婚礼店舗(全国57店舗)、以下:T&G)を紹介し、商談に至りました。

### 未来を彩るレモンの力、持続可能な産地形成を目指して

T&Gは、日本のホスピタリティ業界をけん引するリーディングカンパニーを目指し、日本の高品質な第一次産品(魚、肉、果物など)の強みを活かす取組みを行っています。

今般、JAふじ伊豆によるレモンの産地化に向けた取組みが共感され、環境負荷の軽減を目指して「みどり認定」を取得している点も評価されました。その結果、T&Gが運営する結婚式場で提供される料理やレモンジュースの原料として、JAふじ伊豆のレモンを活用することが決定しました。



## ② JAバンク静岡アグリサポートプログラム

JAバンク静岡では、平成28年度よりJAバンク全国施策ではカバーしきれない領域を補充すべく、全国施策と併せて「JAバンク静岡アグリサポートプログラム」を展開し、県内農業者の所得向上及び持続的な発展に向けた取組みを実践しています。

### 令和6年度実施施策

| 施策              | 内容                                                                |
|-----------------|-------------------------------------------------------------------|
| JAバンク静岡保証料助成    | 農業資金のお借入をされる農業者を支援するための保証料助成による金融支援。                              |
| 災害対策資金          | 県内で発生した自然災害等により被害を受けた農業者の早期復旧を支援するための利子補給・保証料助成による金融支援。           |
| 担い手育成支援         | 農畜産業の担い手の育成や、地域農業基盤の振興・発展及び地域活性化に繋げるため、県内の農業高校等の学生が行う研究等に対する費用助成。 |
| 親元就農支援          | 若い労働力の確保や後継者育成に繋げるため、親元就農者の知識や技術習得のために支出した費用を助成。                  |
| JAバンク利子補給(全国施策) | 農業資金の融資を受ける農業者の借入負担の軽減を図り、経営をバックアップするための利子補給による金融支援。              |



## ③ 県内小学校への教材本贈呈

県内約500校の小学5年生に、食・環境・農業・金融経済をテーマとした補助教材を贈呈しました。



## ④ 特殊詐欺未然防止対応

高齢利用者を対象に、平成30年4月よりATMの利用制限の内容を変更し、更なる被害防止及び被害額の極小化に努めています。



## ⑤ 住宅資金を通じたSDGsに貢献する取組み

住宅に使用された木材を間接的に森林へ還元するため、住宅資金新規実行額を基準とし、「公益社団法人静岡県林業会議所」へ300万円につき100円の寄付金を贈呈しました。



## ⑥ 「フードバンクふじのくに」への食料の寄贈

令和6年7月に長期保存ごはん(580食)を「フードバンクふじのくに」へ寄贈しました。



## 7 SUSTAINABLE GARDEN PROJECT

当会では、株式会社エスパルスと連携し環境にやさしいガーデニングを推奨しており、令和6年度は、清水エスパルスの本拠地である「IAIスタジアム日本平」の西サイドスタンドメイン側花壇の一部に、環境にやさしい人工土壌「高機能バイオ炭」を混合し、ガザニアを定植しました。この「高機能バイオ炭」を使った栽培で、約2kgのCO<sub>2</sub>削減効果(乗用車13km走行分の排出量)があることが実証されています。

当会は、この環境にやさしい「高機能バイオ炭」によるガーデニングの輪を地域の皆さまと広めていくことが、未来の脱炭素社会への歩みになるとの思いを込め、『SUSTAINABLE GARDEN PROJECT』を企画・運営しています。今後も、脱炭素社会、サステナブルな社会の実現のために、地球にやさしい農業の普及・発展に努めてまいります。

※「高機能バイオ炭」とは、植物の炭等の多孔体に微生物を付加し、有機質肥料を混ぜ合わせ、適切な状態で管理してつくられた人工土壌の名称で、農研機構が開発した技術に株式会社TOWING独自技術を掛け合わせて実用化しました。



### TCFD提言への取組み(気候変動に対する対応)

TCFD\*の提言を踏まえた開示内容の充実を図っていくとともに、農業・地域の円滑な脱炭素社会への移行に向けて取り組んでいきます。

※Task Force on Climate related Financial Disclosures(気候関連財務情報開示タスクフォース)

### 温室効果ガス排出量(GHG)削減の指標と目標の設定

2030年度における温室効果ガス排出量(GHG)削減目標を「2013年度比50%の削減」と定めて環境負荷の低減に努めます。

### サステナブル・ファイナンスの指標と目標の設定

2030年度までにサステナブル・ファイナンスを累計で1,000億円実行する目標を設定しています。

### ハラスメントのない働きやすい職場環境の構築に向けた取組み

ハラスメント行為は経営上の重大なリスクであるという認識のもと、「ハラスメント行為を絶対に許さない」というトップメッセージを役員員に対して発信するとともに厳格な内部ルールを整備しています。

### 一般事業主行動計画(次世代法・女性活躍推進法 一体型)

職員全員が働きやすい雇用環境をつくることによって、全ての職員がその能力を十分に発揮し、また、女性がより多様に活躍できるようにするため、行動計画を定め、実践しています。

# 業 績

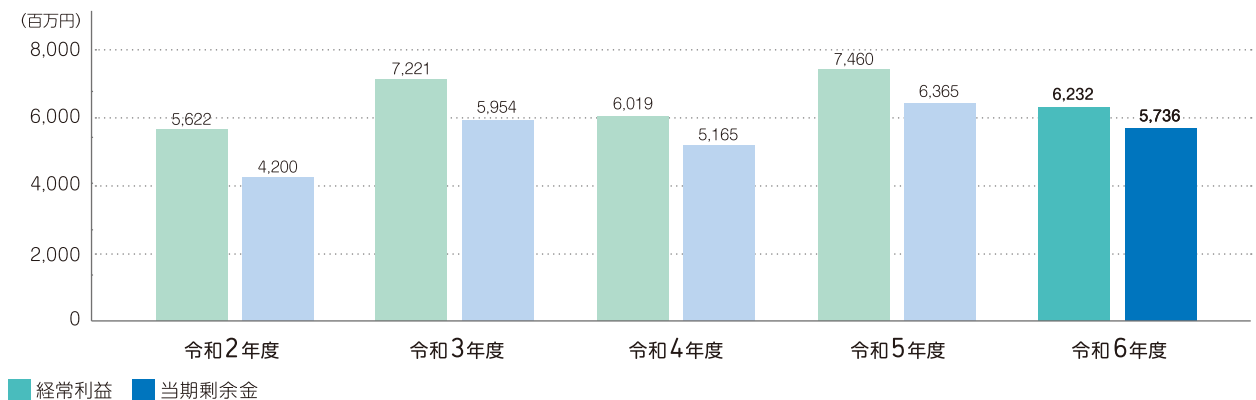
## 最近の5事業年度の主要な経営指標

(単位：百万円、口)

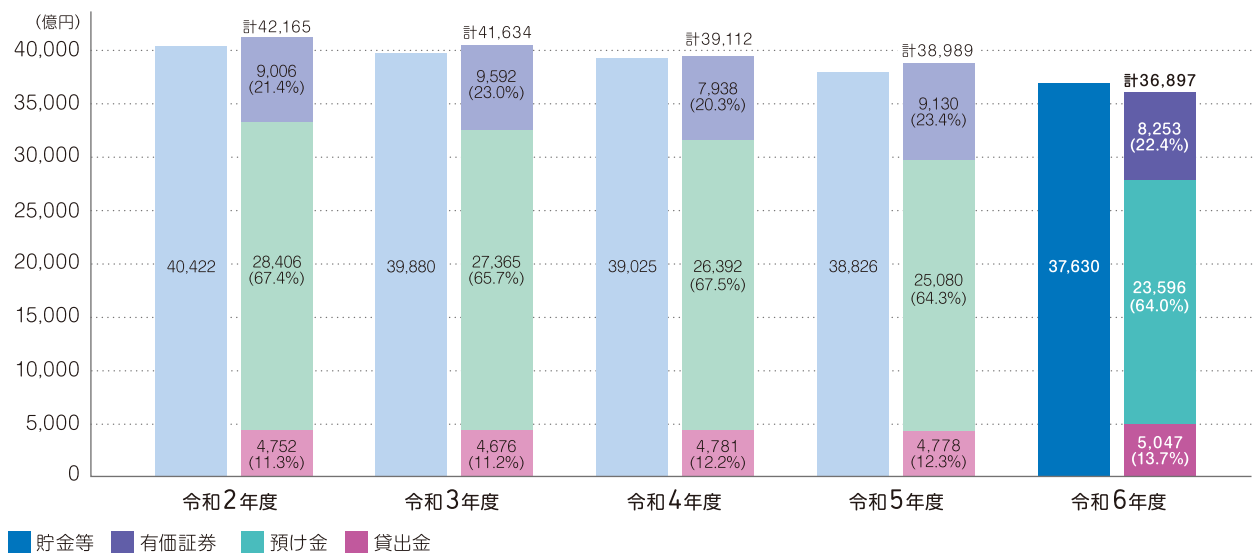
| 項 目           | 令和2年度                     | 令和3年度                     | 令和4年度                     | 令和5年度                     | 令和6年度                     |
|---------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 経常収益          | 39,036                    | 41,852                    | 52,381                    | 41,529                    | 49,469                    |
| 経常利益          | 5,622                     | 7,221                     | 6,019                     | 7,460                     | 6,232                     |
| 当期剰余金         | 4,200                     | 5,954                     | 5,165                     | 6,365                     | 5,736                     |
| 出資金<br>(出資口数) | 161,302<br>( 16,130,255 ) | 161,302<br>( 16,130,255 ) | 161,302<br>( 16,130,255 ) | 161,302<br>( 16,130,255 ) | 161,302<br>( 16,130,255 ) |
| 純資産額          | 291,849                   | 287,329                   | 273,875                   | 290,873                   | 271,208                   |
| 総資産額          | 4,509,088                 | 4,472,499                 | 4,233,495                 | 4,232,015                 | 4,088,488                 |
| 貯金等残高         | 4,042,224                 | 3,988,067                 | 3,902,581                 | 3,882,651                 | 3,763,002                 |
| 貸出金残高         | 475,297                   | 467,683                   | 478,127                   | 477,837                   | 504,749                   |
| 有価証券残高        | 900,624                   | 959,290                   | 793,882                   | 913,064                   | 825,331                   |
| 預け金残高         | 2,840,645                 | 2,736,519                 | 2,639,289                 | 2,508,022                 | 2,359,638                 |
| 剰余金配当金額       | 3,138                     | 3,502                     | 3,105                     | 3,816                     | 4,505                     |
| 職員数           | 262 名                     | 269 名                     | 271 名                     | 267 名                     | 273 名                     |
| 単体自己資本比率      | 15.27%                    | 15.54%                    | 15.36%                    | 16.11%                    | 15.37%                    |

※「単体自己資本比率」は、「農業協同組合等がその経営の健全性を判断するための基準」(平成18年金融庁・農林水産省告示第2号)に基づき算出しています。

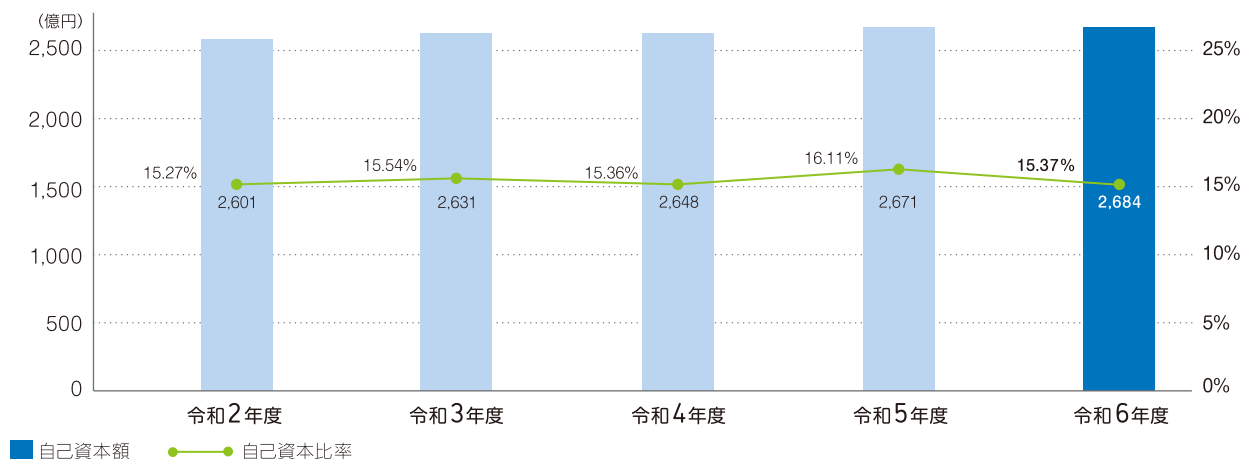
## 利益の推移



## 調達資金と運用資金の推移



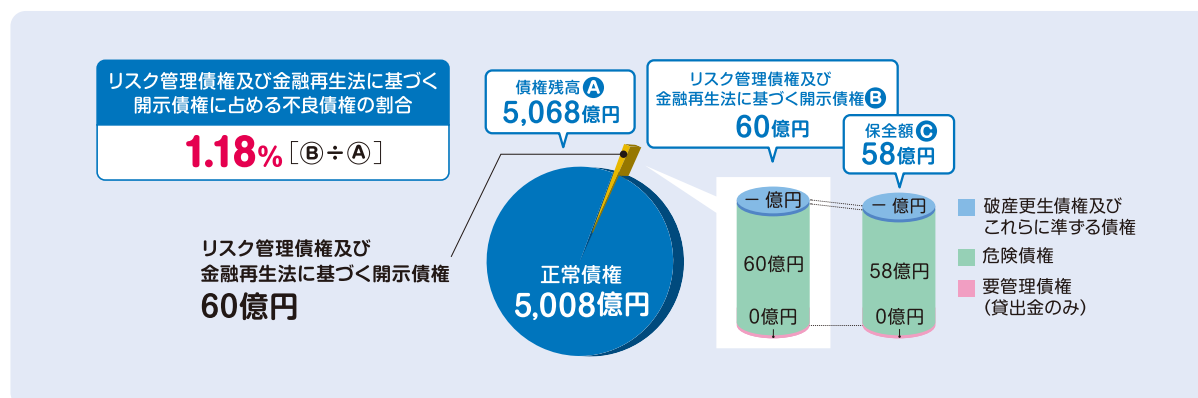
## 自己資本比率の推移



一般に自己資本比率とは、貸出金や有価証券等で運用している「総資産」に対する「自己資本」の割合をいいます。不測の事態における金融機関の拠り所は自己資本であり、自己資本比率は、金融機関の健全性を測る重要な指標です。農業協同組合法等の法令では、自己資本比率が4%未満(国内基準)のJA・信連に対し、経営の改善及び業務の停止等の命令が発令されることが規定されていますが、令和6年度の当会の自己資本比率は15.37%と発令基準である4%を大きく上回っています。

## リスク管理債権及び金融再生法に基づく開示債権

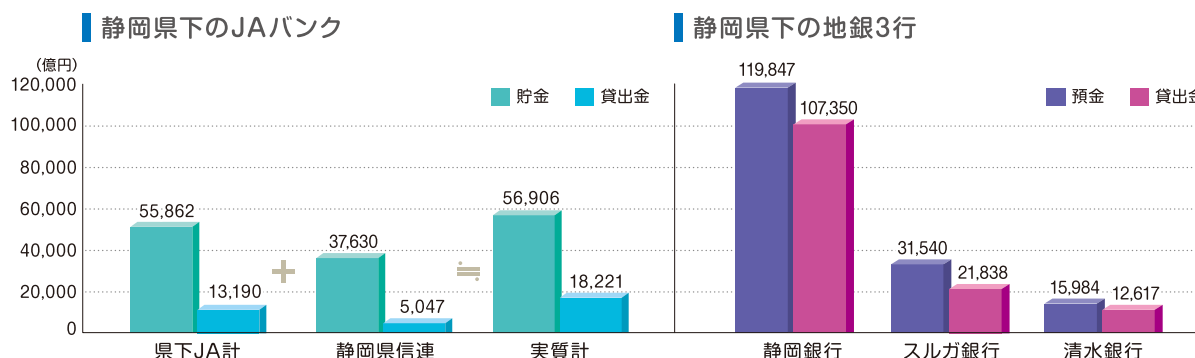
厳格な資産査定を行うとともに、適正な引当金を計上し、資産の健全化を図っています。



## JAバンク静岡のちから

静岡県内でも有数の豊富な資金を有しています。

(令和7年3月末)



※ 1.「実質計」は静岡県下JAと静岡県信連の相互取引分を除外した純合計額を表示しています。  
2.「静岡県信連」の貯金額には譲渡性貯金を含んでいます。

※ 各行の残高は単体の実績を表示しています。



KENSHINREN  
静岡県信連

 **JAバンク 静岡**  
**県下JA・静岡県信連**

**静岡県信用農業協同組合連合会**

〒422-8621 静岡市駿河区曲金三丁目8番1号 TEL.054-284-9652 FAX.054-284-9694

<https://www.jabank-shizuoka.gr.jp/shinren/>

表紙デザインテーマ 近未来の農業      イラストレーター 萩原 まお氏(静岡在住)



- 静岡県信連は、静岡県の豊かな森林づくりをサポートしています。
- この印刷物は環境に配慮し植物油インキで印刷しています。

